

プロフィール

東京都出身。慶應義塾大学大学院社会学研究科教育学専攻、英国 Cardiff University School of Social Sciences 大学院教育学コースへの留学を経て、2011 年 4 月に外資系コンサルティング会社に入社。4 年間、日本政府や国内外の企業に対するコンサルティングサービス、新興国関連の調査事業に従事。2015 年 6 月より、平和構築人材育成事業の一環で国連ボランティアとして国連児童基金（UNICEF）フィリピン事務所に派遣。事業終了後も引き続き、同事務所に勤務中。

1. 平和構築人材育成事業に応募した理由を教えてください。

幼少期より国連の仕事や教育開発の仕事に強い関心があり、NGO の活動等に関わってきました。キャリアを構築する上で、強いアウトプット能力が求められる民間の立場から中進国や途上国の社会開発や支援を行う仕事がしたいと思い、大学院卒業後は海外で国連関連の案件を数多く扱う外資系のコンサルティング会社に就職しました。政府関係機関や民間企業の新興国支援の案件に携わる中で、貧困や紛争、暴力などで学校に行くことが出来ない子供たちの支援を直接行いたいという思いが強くなり、本事業に応募しました。

2. 国内研修に参加した感想は？

NGO 等の活動や日本の援助実施機関の仕事を通して、国連や国際機関の仕事にかかわる機会があったものの、国連・国際機関の仕組みや平和構築に関する知識を体系的に学ぶ機会がこれまでなかったため、民間企業の出身者として、国内研修の内容は非常に多くのことを学ばせて頂く機会になりました。特に国連の第一線で活躍されている方々や、長年国連の中でキャリアを形成されてきた方々のお話を毎日直接伺うまたとない機会をこの国内研修中に頂けたことは、非常に感謝しています。また国内外から参加している研修員とのつながりを持てたことは、海外実務研修でそれぞれが任地に赴任した後に相談や、情報交換を行う上で、非常に貴重でした。

3. 海外実務研修での活動について教えてください。

2015 年 6 月より UNICEF フィリピン事務所に教育と平和構築担当官として派遣され、フィリピンの最も恵まれない地域に対する教育へのアクセス、および質向上のための支援を行っています。近年の目覚ましい経済成長を受け中所得国として称されているフィリピンですが、国全体は今だ 120 万人の子どもたちが学校に通うことが出来ない状況であり、この規模は東ティモールやデンマークなどの全人口の規模に匹敵します。

特に私がフィールドサポート担当として関与しているフィリピン南部のミンダナオ島西部に位置するムスリム・ミンダナオ自治区は、子どもたちが極めて困難な状況にさらされている地域です。ムスリム・ミンダナオ自治区はフィリピンに 18 存在する行政区の一つであり、ムスリム系反政府勢力と政府との和平交渉の末に誕生した、独自の自治が認められている地域です。

人口約 400 万人のうちイスラム教徒がその大部分を占めるその地域は、「約束の地」と称されるほど自然や資源が豊かなところですが、貧困、宗教対立、民族対立、政府・反政府組織の対立、汚職、資源をめぐる利権等が相まって、40 年以上もの長きにわたって紛争が続いている地域でもあります。また自然災害の影響も色濃く受ける地域であり、2015 年には洪水やエルニーニョ現象の影響によって干ばつが発生したため、農民による一揆や暴動に発展する例も見られました。

社会不安が続く影響は弱者である子どもたちに大きな影響を与えており、学校の就学率、卒業率ともにフィリピンの中でも最低水準にあります。ムスリム・ミンダナオ自治区では小学校に入学した 10 人のうち卒業までは至るのはそのうちの 4 人であり、さらに中学校卒業までたどり着くのはその内のたった 1 人です。この水準はアフリカや中東地域の中で途上国と称される国よりも低水準にあり、平和構築の土台作りのためにも教育水準の向上は急を要する事態にあります。

UNICEF では、基礎教育にアクセス出来ない子供たちを少しでも減らすための政策形成に向けた、政府へのアドボカシーおよびプログラム作成を担当しています。また各種 UNICEF 内のレポート、ドナー報告書、提案書等の作成を担当しています。具体的な業務内容の一例は以下の通りです。

- フィリピンのミンダナオ地域に対する基礎教育および就学前教育の企画、モニタリング、レポートの実施。基礎教育および就学前教育の円滑な導入の補佐、多様な関係者のコーディネーションに従事。
- ミンダナオにあるフィールドオフィスサポートを担当。カントリーオフィスと連携が必要な業務（報告書作成、ドナー報告、事業モニタリング、セミナー参加、問い合わせ対応等）の調整業務を担当。
- UNICEF で行っているプログラムや実証データに基づいたフィリピンの教育省に対する政策提言や連携協力、および政府担当者の能力構築に従事。とりわけフィリピン政府からモロ=イスラム解放戦線に対する自治権移譲に伴い、ミンダナオの基礎教育および就学前教育の質の向上、学校の安全性を向上させるために、ムスリム・ミンダナオ自治区の教育省担当者を対象としたワークショップを開催。
- フィリピンの最も恵まれない地域を対象に育児や教育、子どもの保護に関するメッセージを提供するプロジェクトを担当。現地携帯通信会社と協業の上、UNICEF 内の全てのセクションと連携し、プロジェクトを遂行。
- 進捗報告書や対外向けのコミュニケーション資料、ドナー報告書の作成。現行の教育評価の結果や方法論に関する改善案をフィリピンの教育省、ムスリム・ミンダナオ自治区の教育省等に提示。
- ミンダナオの教育支援拡大のための新たなドナー開拓、提案書の作成。国際機関、二国間開発援助機関等の関係者に対し、UNICEF との協業の可能性について議論。

- UNICEF が教育プログラムの計画および実証データに基づいたアドボカシーを実現するために、通学できる距離に学校施設がない児童、少数民族、障がい児童、紛争等を踏まえた、フィリピンにおける基礎教育のデータ収集および情報収集を実施。

4. 海外実務研修での感想は？一番印象に残っていることは？

今回の海外実務研修ではミンダナオ地域の平和構築に関連した教育担当として UNICEF フィリピン事務所に派遣になりましたが、ひとりの教育担当官として、フィリピンの教育に関するあらゆる業務に携わる経験を与えられたことに、非常に感謝しています。当初期待されていたフィールドサポートの担当のみならず、中央政府に対するアドボカシーや政策支援、調査、パートナーとの協議、国際会議への出席、大学での講演など、本当にたくさんの業務経験を与えて貰いました。特にフィールド経験が少ない私は、フィリピン各地の教育課題をこの目で見て理解をしたいと少しでも多くの出張経験を希望していました。この希望の通り、この1年間の間にミンダナオを含むフィリピン各地を訪問する機会に恵まれ、その経験が実際にプログラム形成やモニタリング、ファンドレイジングやレポーティングを行う際に非常に役立っていると感じています。

普段はマニラを拠点に業務に取り組んでいますが、最も印象に残っているのはミンダナオの国内避難民キャンプを訪問した時のことです。限られた政府の支援しか届かないこのキャンプにおいて、UNICEF は小学校および幼稚園の建設を行い、先生のトレーニングや教材の提供、地元の子どもたちによる教育啓発の劇団の活動等の支援を行いました。日々の暮らしも困難な状況の中、保護者自身も限られた教育経験しか持たない人たちも多く、当初学校に就学することに対して否定的な家庭もたくさんありました。地元の NGO との協力により、徐々に子どもたちの就学が進んでいたのですが、新年度を迎えるに当たり、学校がきちんと開校するかどうかを懸念する声が多々上がりだしました。というのも、その時期になっても児童の就学登録が始まる気配がなかったためです。その中で、UNICEF に対して何とか学校を続けられるように働きかけてほしいという要望の声が上がりました。その中には子どもたちの親の声も多数含まれていました。「どうか学校を続けてほしい。教育は私たちにとって、希望だから。自分の子供たちは、こんなに貧しい思いをしなくてすむかもしれないという希望だから。もし学校に机も椅子もなかったとしても、子どもにはフライパンを持たせるからそれに座らせればいい。だから学校を続けてほしい。」

すぐに政府関係機関に連絡を取り、数週間遅れでしたが学校は無事に再開されました。どんなに生活が困難でも、紛争や自然災害等に巻き込まれていても、それでも教育は、未来への希望になり得るものです。自分の行っている仕事の意味を再確認するとともに、その責任を強く痛感した出来事でした。

5. 今後のキャリア・プランを教えてください。

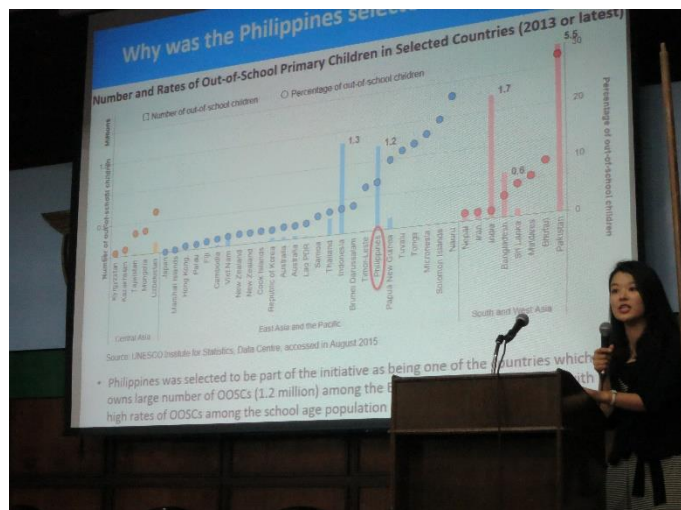
本事業終了後も、UNICEF フィリピン事務所の出資によりこれまでと同じ職務内容で1年間の契約延長を頂くことが出来ました。今後、自分の専門性をさらに磨きながら、学校にアクセスできていない子供たちをこの世界から一人でも減らすために、国連等の現場で教育開発の仕事に従事していきたいです。

6. 事業への参加を考えている方にメッセージをお願いします。

私は民間企業から本事業に参加した数少ない参加者の一人でしたが、国連という現場で実現したい夢や思いがある方には、本事業への参加を強くお勧めします。これまで途上国への出張経験やNGOの活動等での短期の滞在経験はあったものの、途上国や中所得国での生活経験はなく、不安に感じることもありました。ただ国内研修で準備と人脈づくりを行った上で海外実務研修に参加できたこと、そして国連ボランティア計画（UNV）の担当者と幾度かにわたる面談を経て自分が希望する職務内容のポストに就くことが出来たことにより、非常に有意義な海外実務研修を行うことが出来たと感じています。



ミンダナオの国内避難民キャンプにて
UNICEFの支援による幼稚園開設日



フィリピン大学の教育フォーラムにて
学校に通うことが出来ない子どもたちの現状についての講演